

ペルー産マンダリン 米国では需要が高まり、欧州では価格が上昇

FreshPlaza 2023年5月24日

ペルーの生産輸出業者であるコエサ(Coexa)社は、米国市場でのマンダリンの需要が高まっている一方、ヨーロッパでは輸入果実の不足により価格が上昇していると見ている。同社の販売部長であるロドリゴ・シスネロス氏によると、「米国市場ではマンダリンの需要が近年増加しており、2023年も例外ではない。マンダリンは、同国で最も人気のある柑橘類の一つである。今年、ヨーロッパでは、シーズンの初め(4月と5月)に輸入果実が不足しており、南半球産の早生品種の価格が上昇する可能性がある。」(以下「」は同氏の発言)

同氏は、コエサ社の主要市場は米国であり、出荷量の約65%を占めると言う。残りは欧州連合とアジア市場に仕向けられている。「米国市場でのマンダリン需要の高まりに貢献した重要な要因の1つは、その汎用性である。この果実は、生食からジュース、料理、ベーキングまで、さまざまな方法で使用できる。また、マンダリンは学校に行く子供たち弁当箱の中で非常に重要な役割を果たしている。ビタミンCやその他の必須栄養素の優れた供給源であり、健康志向の消費者の間で人気のある選択肢となっている。価格面では、米国のマンダリンの輸入市場は近年多少の変動が見られるが、2023年には価格は引き続き比較的安定するものと予想される。しかし、年々複雑化し難しくなっている要因の1つは、輸入業者間の競争の激化である。供給側はペルー、チリ、スペイン、モロッコ及びその他の国のサプライヤーが市場の一部を獲得しようと競争しており、品質が重要かつ不可欠な要素となっている。」

同社は、オロヌール、クレメヌール、タンゴ、タヒチライム、及び生食用ブドウのスイートグローブを生産、梱包、輸出している。同社はペルーのリマ市にオフィスを構えており、農場はイカ県の肥沃な谷にある。

ヨーロッパに目を向ける

「マンダリンのヨーロッパ市場は、健康的な食事への関心の高まりと、手軽で便利なスナックとしてのマンダリンの人気により、近年拡大している。ペルーの輸出業者の多くは、今年、ウンシュウミカン(サツマ)、プリモソール、クレメンタインなどの早生の品種でヨーロッパをターゲットにしている。海上輸送コストの低下もこれを可能にするのに一役買っている。平均価格については、ヨーロッパのマンダリン市場は米国と同様比較的安定している。価格は季節や果実の出回り量によって変動する傾向があるが、全体として、消費者にとって妥当な範囲にとどまっている。」

輸送費の低下

「昨年1年間、世界経済は海上貨物運賃の大きな変化を経験した。コロナ禍は、海運業界に予期せぬ課題をもたらした。昨年、海運サービスに依存する多くの企業は、サプライチェーンを維持する上で多くの課題に直面した。海外への輸送コストが高騰し、多くの企業にとって利益を上げることが次第に困難になった。コンテナの不足も、一部の企業の商品の受け取りを遅らせ、売上と利益の喪失につながった。しかし、我々生産者は、最近の海上輸送コストの低下に安堵のため息をつくことができる。状況の改善は、ロックダウンの緩和、コンテナの入手可能性の向上、世界貿易の正常化など、さまざまな要因に起因している。しかし、これはまだ生産者の生産資材コストの増加をカバーするためには十分でない。」

アジアへの展開

「今後4年以内にアジア市場を開拓し、出荷量シェア20%以上を達成することを目指す。新しいチャンカイ港の操業開始は、より迅速かつ効率的な方法でアジア市場への扉を開くのに役立つ。また、オッリ(Ori)などの新しい柑橘類品種にも賭けており、輸入業者やスーパーマーケットに様々な商品を提供することができる。最後に、今日、生産性がすべてである。生産者は、最高の収量を達成し、輸出可能な果実の比率を高め、最も要求の厳しい市場で競争できるプレミアム品質を実現するために、各自の果樹園を隅から隅まで活用する方法を知る必要がある。」

執筆者: クレイトン・スワート